

自然をめぐるエッセー 53

由井 浩

東京港野鳥公園

7月にあるテレビ番組で東京・大田区の大田市場に隣接する東京港野鳥公園が紹介された。暑さがようやく収まった10月の初めに、JR京浜東北線大森駅から循環バスに乗ってこの公園に行った。

パンフレットによれば、野鳥公園がある場所は、かつては遠浅の海だったが、1960年代に埋め立てられた。埋め立てた土地の状態が落ち着くまで整備を待っている間に草原や池ができて魚、昆虫、野鳥などのさまざまな生き物が集まるようになり、地域の人たちが自然を守る運動を始めた。その熱意に押されて1978年に東京都はこの地域に野鳥公園を開園した。その後1989年には当初の面積の8倍の24.9haに拡張され、東京港野鳥公園として開園した。2018年には36.0haに面積が拡張された。

初めての訪問で全貌がつかめないのので、公園の東南部にある潮入りの池（淡水と海水が混じった汽水の池）を見渡すネイチャーセンターの建物の2階からの観察から始めた。池の北側の縁と中央部の小島の水際に多数の野鳥がたむろしている姿を写真に収めた。



ネイチャーセンターの解説展示の写真と照らし合わせて、北側の縁にいるのは大型のダイサギ（一般にシラサギと呼ばれている）やアオサギ、小島に沢山いる黒い鳥はカワウだということがわかった。



←ダイサギ
とアオサギ

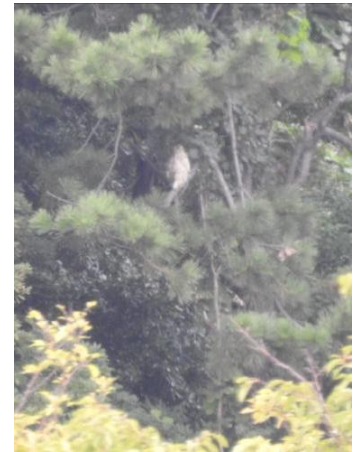
カワウ→



ネイチャーセンターの野鳥の会のレンジャーの人から、この日の午前にはカワウが集団で魚を追いかけて囲む漁を始めたが、猛禽のオオタカが現われてカワウは退散して漁は終

わってしまったとの興味深い話を聞くことができた。

昼過ぎにネイチャーセンター2階に来てから、備え付けの望遠鏡を覗いたり、写真を撮ったりして、野鳥の観察に没頭している間にいつの間にか1時間以上が経っていた。他の階も見てみようと、1階の展示室に行き、係の人による野鳥公園の鳥、蝶、トンボなどの生き物についてのスライドショーを見てから、地下1階に降りて干潟散歩道を歩いた。また1階に戻ると係の人が「今ちょうどオオタカが見えますよ。」と備え付けの望遠鏡でオオタカの姿を見るよう勧めてくれた。カワウの囲い込み漁を中止に追い込んだという話を聞いた後だったので、オオタカが遠くの木に留まってじっとしている姿を格別な気持ちで眺めた。望遠鏡で見てから写真にも撮った(遠すぎてハッキリは撮れなかったが)。



オオタカ

ネイチャーセンターを出て、潮入りの池の南端近くにある観察小屋に入った。ここにも備え付けられている望遠鏡で水面に近い角度から野鳥の姿をゆっくり観察した。



今回の観察はここで終えた。野鳥公園が誕生してから40数年たった今、野鳥を中心とする生き物が餌付けなどの人による干渉も受けずに、自由に、穏やかに、時に弱肉強食の姿も見せて、大自然の営みを粛々と続けていることに感嘆しながら園内の緑豊かな道を出口に向かって歩いた。

今回は、この公園で年間に120種類くらい観察されるという野鳥の中のほんの一部しか見ることができず、東京ディズニーランドの7割ほどの広さがあるこの公園のごく一部にしか行けなかった。出口の外のベンチで一休みしながら、今度また別の季節にここに来て、今回は行けなかった東淡水池、西淡水池なども見て、できれば色の鮮やかな野鳥の姿も観察したいと思った。

この日は日曜日だったのにこの公園は閑散としていて、出口付近にある緑に囲まれた休憩所にも人の姿がほとんどなかった。東京駅から電車とバスで30分ほどの所で大自然の営みを見ることができこの公園のことをもっと多くの人にPRして、来園者が大幅に増えることを期待したい。



緑に囲まれた休憩所